

## 恋愛至上主義の不安

## - 非モテ文化のカルチュラル・スタディーズを通して -

立命館大学大学院  
応用人間科学研究科  
対人援助学領域  
家族機能・社会臨床クラスター  
足達 龍彦

本論文は異性と恋愛関係を上手く築くことが出来ない（つまりモテない）男性について扱った。カルチュラル・スタディーズの手法を用い、モテない男性達の支える「非モテ文化」の分析を通して、恋愛の持つ社会的意味を見直した。

第1章では、本論文ではモテないことという主題について、モテないという問題を描いた漫画作品群を対象に、この文化の担う意味や働きをカルチュラル・スタディーズの手法を用いて分析していくことを説明した。

第2章では、モテないことが男性に与える不安について見て来た。現在の社会では、「結婚」と「幸せ」は同義のものとして語られ易く、その逆に「結婚出来ないこと」は「不幸」として語られる傾向にある。そして「結婚（つまり幸せ）」に至る為には、「恋愛」というプロセスを経なければならない。モテない男性は自身が「異性と恋愛関係を築くことが上手く出来ない」ということについて不安を抱え込み易いとした。

第3章では、男性向け漫画、女性向け漫画で描かれる恋愛観のあり方のジェンダー差について、カルチュラル・スタディーズ的な分析を通して見て来た。それによると、男性向け漫画では、登場人物達の関係性のあり方とはどちらかといえば素朴なものとして描かれ易く、反対に女性向け漫画での関係性のあり方は、流動的で複雑なものとして描かれ易い傾向にある。そして男性向け漫画の登場人物達よりも、女性向け漫画の登場人物達の方が、他者と関わっていくということをし、楽しんでいる様子であった。これらの特徴は現実社会での私達のジェンダーのあり方を反映しており、男性は女性と比較して社会的に孤立する傾向が高いとした。

第4章では、漫画『モテキ』という作品で描かれる、主人公と登場する二人の女性との相互作用をケーススタディとして分析した。そして主人公藤本幸世がモテない理由を「相手に対して過剰に期待や不安を抱いてしまうから」であり、そしてそれは「自分に自信がないから」生じているものだと述べた。そして「非モテ文化」の中でも、男性作家と女性作家とでは「モテない不安」に対する問題意識のあり方が違うことがくっきりと反映されていた。

第5章では、私たちはそもそも何故素朴に「モテたい」と考えているのかという点に注目し、現代社会では恋愛をすることが至上の価値を持っているという物語が支配的であるからだとした。そしてカルチュラル・スタディーズの手法を通じて、非モテ文化が今後恋愛至上主義的な価値観を相対化する可能性を論じた。